茨木市立三島中学校　全国学力・学習状況調査分析結果

令和４年10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

**（領域ごと）**

1. 言葉の特徴や使い方に関する事項　　　　　概ね良好な結果であった
2. 情報の扱い方に関する事項　　　　　　　 　 概ね良好な結果であった

③　我が国の言語文化に関する事項　　　 　　　概ね良好な結果であった

④　話すこと・聞くこと 　　　　　　　　　　　　　　　 概ね良好な結果であった

⑤　書くこと 　　　　　　　　　　　　　　　　　 概ね良好な結果であった

⑥　読むこと 　　　　　　　　　　　　　 　　　　概ね良好な結果であった

**（問題形式）**

1. 選択式　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 概ね良好な結果であった
2. 短答式　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　概ね良好な結果であった
3. 記述式　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　概ね良好な結果であった

**（無解答率）**　　　　　　　　　　　　 　　　　　　　　 良好な結果であった

**（その他）**

　・もっとも無解答率の高かった設問

　　１の三　スピーチをどのように工夫して話すのかと、そう話す意図を問う問題。（記述式）

○●数学●○

分析

　全体的に正答率は全国平均と比べても概ね良好な結果であった。読むことなどは全国的に正答率が高く、本校も正答率が高かった。

しかし、説明する場面を大切にして、授業を行っているにも関わらず、論理の展開に注意して聞く問題や、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現して書く問題などの正答率が低かった部分には課題を感じた。説明というアウトプットの方法は身についているのかもしれないが、そこに行きつくまでの内容のインプットや、得た知識・技能の考察、または嚙み砕いて自身の言葉にし、自身の考えを整理する能力（読む力）の部分にも注力しないと、形だけの取り組みになってしまう恐れがあると考えられた。

　アウトプットに至るまでの過程で、しっかりと個々が学び、考え、根拠をもとに説明することができるような能力を育成することが、学力の向上につながると考えるので、この視点を持って授業の改善に生かす。

**（領域ごと）**

1. 数と式　　　　　　 概ね良好な結果であった
2. 図形 概ね良好な結果であった
3. 関数　　　　　　　　　　　　 　　　　 概ね良好な結果であった
4. データの活用　　　　　　　　　　　 概ね良好な結果であった

**（問題形式）**

1. 選択式　　　　　　　　　　　　　　　 概ね良好な結果であった
2. 短答式　　　　　　　　　　　　　　　 概ね良好な結果であった
3. 記述式　　　　　　　　　　　　　　　 概ね良好な結果であった

**（無解答率）**　　　　　　　　　　　　 概ね良好な結果であった

**（その他）**

もっとも正答率の高かった設問は、「容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ」問題でした。表や折れ線グラフをもとにして選択肢の中から正しいものを選ぶ、思考判断力を培ってきていることが分かった。授業内での学び合いで、根拠をもとにして説明しあっていることが、資料を活用する力につながったと考えられる。

学校の特徴的なことについて記入

　　　　・もっとも正答率の高かった設問

　　　　・もっとも正答率の低かった設問

　・もっとも無解答率の高かった設問

　　　　・もっとも無解答率の低かった設問など

**分析**

「連立方程式を解く」「値を代入する」「合同条件を答える」のような答えや解き方が決まっている問いに関しては、無解答者も少なく、よくできる。

一方で、「説明する」「予想を自分の言葉で表現する」「素因数分解する」のような数学的用語が多い問題や、自分なりの言葉で表現しなければいけない問題に課題があることが分かった。

　長文になると文章を読む力が必要になり、その部分の経験が十分ではないため、正答率にも課題が見られる。

　今後の授業では、今回分析でわかった課題を問題や生徒同士の言語活動、説明の場面などに取り入れ、自分の考えや意見を数学的用語や表やグラフを用いて表現できるように改善を図っていく。

○●理科●○

**（領域ごと）**

1. エネルギー　 概ね良好な結果であった
2. 粒子　　　　　 　概ね良好な結果であった
3. 生命　　　　　　　　　　　　 　　　概ね良好な結果であった
4. 地球　　　　　　　　　　　　　　　 概ね良好な結果であった

**（問題形式）**

1. 選択式　　　　　　　　　　　　　　概ね良好な結果であった
2. 短答式　　　　　　　　　　　　　 やや課題が残る結果であった

1. 記述式　　　　　　　　　　　　　　概ね良好な結果であった

**（無解答率）**　　　　　　　　　　　　 概ね良好な結果であった

**（その他）**

・もっとも無解答率の高かった設問

５（３）考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する問題（エネルギー分野）

学校の特徴的なことについて記入

　　　　・もっとも正答率の高かった設問

　　　　・もっとも正答率の低かった設問

　・もっとも無解答率の高かった設問

　　　　・もっとも無解答率の低かった設問など

○●経年比較●○

**分析**

　　考察や説明する問題の無解答率が高かった。正答率も全国平均、大阪府平均より低い結果となった。このことから、まずはすべて説明できなくても、根拠や結論を探すことができるよう指導していく必要があると考える。

　今回正答率が高かった地球分野は、重点的に復習していたため、概ね良好な結果であったと考えられる。

　現在、授業で取り組んでいる、考察を行う時間を引き続き設け、教員側から提示する定型文を上手く活用させることで、課題の改善を図っていく。

　また、授業内でペア学習や班学習を行うことで、内容を概ね理解しているが、十分には定着しておらず、~~テストなど~~自分で問題を解く際に、記述内容が不十分になることが多い。そのため、授業でも学習したことや対話を通して深めた内容を、改めて自身の言葉で説明させる時間を設け、内容を整理し、伝えることができる力を生徒に育ませていきたい。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

学力高位層は前年度より少し増加している。そして、学力低位層が前年度よりも減少している。学校として、日々の授業を大切にして取り組んでいることが数値にも表れているものと考える。

エンパワー層は昨年度に比べると、大きく減少しているが、引き続き、すべての生徒に確かな学力を身につけられるような授業を展開していく。

全体的な傾向についての分析

記述式の問題には苦手意識を持っている生徒が多くいることが今年度の結果から明らかになっている。単に記述の機会を増やすのではなく、根拠や理由をもとに記述することや自分の考えなどを論理的に記述する機会を設けたい。

無解答率が全体的に改善傾向にあるので、粘り強く問題に取り組む力がついてきているということがわかる。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

・単元テストの実施

・個人→ペア・グループ→班→クラスを意識した授業づくり

・説明を取り入れた授業の充実

・授業時の約束、学びのステップの活用と教室掲示

具体的な取組み

・単元テストの実施

単元や教材ごとにテスト（テスト以外の確認方法もある）をすることで、スモールステップで学習の定着を図っている。

来年度は生徒にとっても教員にとっても、さらに、良いものにするために、実施方法やテスト範囲の区切り方、試験方法などのブラッシュアップを行っていく。

・個人→ペア・グループ→班→クラスを意識した授業づくり

・説明を取り入れた授業の充実

　○成果として見られた、エンパワー層の減少や無解答率の減少、学力低位層の減少、学力高位層の増加などは、個人で粘り強く取り組む時間とペアや班などで学びあう時間、クラスに向けて自分の考えをアウトプットする時間をしっかりと授業の中で設けられている成果だと考える。

　●課題としては、アウトプットに力を入れすぎたり、アウトプットする方法だけを考えていたりして、内容

が十分な思考を伴っていないときがあることだと考える。インプットする段階で躓いている生徒もたくさんいるのではないかということが今回の全国学調の結果からも明らかになったので、アウトプットに進むまでの過程を大切にして取り組んでいきたい。

・授業時の約束、学びのステップの活用と教室掲示

　授業規律の徹底のために、教員も生徒も「授業時の約束」で、開始と終了、授業に向き合う姿勢を共有している。また、「学びのステップ」を意識し、授業づくりをしているので、インプット、インテイク、アウトプットの3段階を意識した授業を実施している。